



2024/4/26

鳥羽小学校だより

校長室から

5月の行事予定

- 3日（金）・・・憲法記念日
- 4日（土）・・・みどりの日
- 5日（日）・・・こどもの日
- 6日（月）・・・振替休日
- 7日（火）・・・集金日
- 8日（水）・・・PTA下校見守りデー
- 9日（木）・・・田植え（荒天時は10日）
- 10日（金）・・・歯科検診
- 11日（土）・・・PTA奉仕作業
- 14日（火）・・・交通安全教室（雨天時は15日）
- 25日（土）・・・県PTA連合会年次総会、鳥羽リンピック（予備日は26日）
- 27日（月）・・・振替



本年度のスクールプラン変更点について

令和6年度のスタートに伴い、鳥羽小学校ではスクールプランを作成し、この実現に向けて取組を進めていきます。詳細は年度はじめ総会資料をご覧ください。今年度、スクールプランについては主に以下の部分を一部改訂しました。

① 読書に関する項目にデジタル図書の活用を取り入れました

今回、例年取り組んでいる読書活動の活性化に向けて、同窓会様より毎月の利用料金の半額補助をいただき、タブレットでデジタル図書が読める「Yomokka」を導入いたしました。学校では、これまでの読み聞かせなどの取組に合わせて、これの積極的な活用を進めてまいります。

② 「豊かな心」での数値目標の表現を変更しました

これまで、自己肯定感の向上をねらい、「自分にはよいところがあるかどうか」を聞いていましたが、今年度は、重点目標にあるように、「自分のことだけでなく、自分や友達を大切にしようとしているかどうか」を聞くことにしました。

③ 「家庭・地域との連携」での数値目標の表現を変更しました

これまでは学校が情報発信していたかただけでしたが、今後、この情報発信した内容をもとにご家庭での親子間の会話に活かされたかどうかをお聞きしたいと考えています。その他、学校が地域資源を活用した体験活動をしているかどうかお聞きしたいと考えています。

縦割り班を3色にします

今年度新たに9名の新生を迎えましたが、17名の卒業生を送り出しましたので、全校児童数は87名となりました。そこで、今後、児童数が減少することも踏まえ、こ

裏面に続く

れまでの4色の縦割り班を3色（赤、青、黄）にします。これによって、1色あたりの人数が約24人だったものが、29人となり、縦割り班ごとに話し合いをしたり、活動したりする時にいろいろなアイデアが出せたり多様な意見を引き出すことができるようになりました。ただ3色にすることで、全校の前に出てくるリーダーの数が4人から3人になるということで、今年度新たに各色に色長、団長、副団長を設けることにしました。この3色化に伴い、ランチルームの座席、清掃場所の割振りなども新しくなりました。来月の鳥羽リンピックで3色に分かれた子どもたちが躍動する様子をご期待ください。



ふるさと教育の推進

今年度もまた、ふるさと鳥羽に誇りを持ち、鳥羽のことが「好きだ」と答える児童の数が増えるような取組を進め、将来の鳥羽の担い手が育つように努めてまいります。

その一つとして、今年は昨年度実施しなかったコウノトリ米づくりに、三田の深水治夫様、谷江耕一様にご指導いただきながら5、6年生で取り組みますが、6年生を中心にスマート農業にも目を向けていきたいと考えています。

その第一弾として、今月11日に北陸農政局に来校いただき、現在の日本の農業の実態と課題についてお話をしていただきました。お話の中では、荒れ地となった耕地が全国的に増えていること、若い農業従事者が減っており、70代が多くを占めていること、また、その解決策の一つとして、スマート農業が期待されていることなどがありました。

次回は5月1日にJA福井県中央会の方に、農協としての取組をご紹介します。当日はメーカーの方に実際にドローンを持ってきていただくことも予定しています。

この活動を受け、5月9日には午前中にコウノトリ米の田植えを老人クラブの皆さんにご協力いただきながら取り組み、午後2時からは無悪にあります高橋利男氏所有の田を借りて、天狗山農園様にお世話になりながら、無人田植え機によるスマート農業の様子を見学します。

この後、合鴨ロボによる除草作業、ドローンによる薬剤散布、無人コンバインによる稲刈りの様子も見学させていただく予定です。こういった取組の中で、将来、ふるさと鳥羽を考える人材育成につながることを期待しています。

2024年(令和6年)4月12日(金曜日) 地域 2

スマート農業 将来自分も

若狭町鳥羽小で出前授業

と、同校が北陸農政局福祉部農政課の職員を講師に招いた。

農業は高齢化など、農家の担い手が減っている現状とともに、無人農機を使う経験がなくても田植え作業が早くできることを紹介した。スマートフォンのタブレットによる田んぼの水管理システムも説明した。児童は、将来の農業の姿を耳から聞きながら、今後、肥料散布などに使われるドローンや、無人農機での田植えの見学予定している若狭町鳥羽小6年生は「米作りを手作業でするのは難しいイメージがあった。スマート農業は若い人でも手伝えると思った。今後の授業や見学が楽しみです」と話していた。

片山 浩希

学校での田んぼで無農薬の「コウノトリ米」を育てている若狭町鳥羽小の5、6年生25人が11日、無人農機やタブレットを活用したスマート農業を授業で学んだ。最先端技術の活用に理解を深めた。

農業への関心を高め、将来携わりたいという気持ちで育んでほしいという思いを込めて。

スマート農業について、授業を受ける児童=11日、若狭町鳥羽小

教員支社
0770(22)3939
FAX0770(22)4529
tsuruga@fuishimbun.co.jp
小浜支社
0770(52)3311
FAX0770(52)3312
obama@fukuishimbun.co.jp